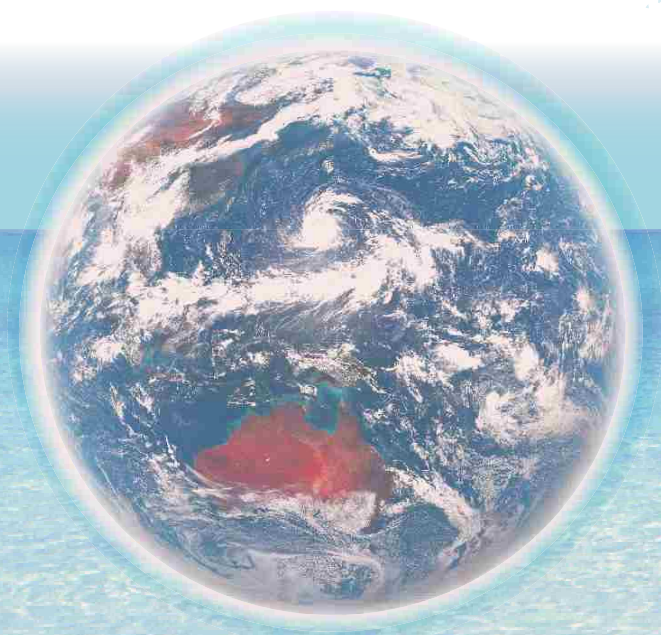


概要版

沖縄県 地球温暖化対策 実行計画（区域施策編）

改定版

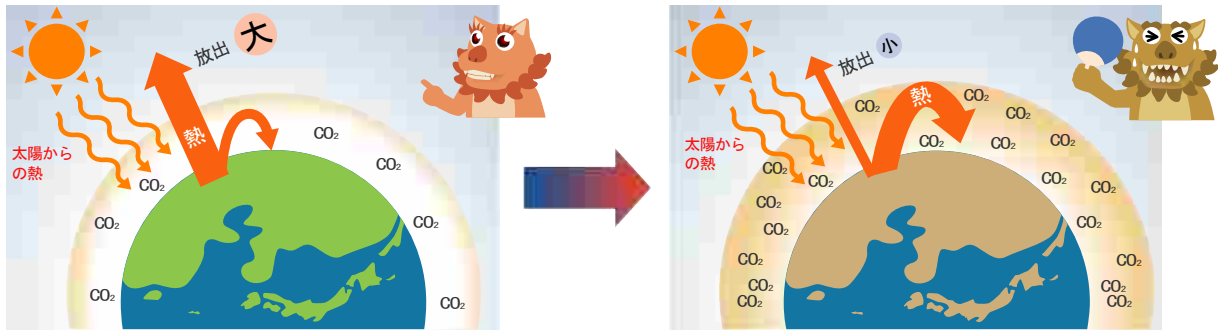


1 地球温暖化とは

●地球温暖化のメカニズム

地球の大気には二酸化炭素（CO₂）など**温室効果ガス**が含まれています。このガスは太陽からの熱を一部吸収し、地球を適度に暖め、人間や生き物が生存するのに適した温度に保っています。

ところが、温室効果ガスが増えすぎると、熱の多くが地球の外に放出されず大気にとどまり、地球全体の気温が上昇します。この現象を**地球温暖化**といいます。



昔の地球

温室効果ガスが増えた地球

●地球が温暖化するとどうなる？

- 強く大きな台風や洪水、干ばつなどの異常気象が増加します。
- 海水温の上昇によりサンゴ礁がなくなって、魚などの生物もなくなってしまいます。
- 生態系への影響や、熱中症患者数の増加、マラリアなどの感染症が増加すると言われています。



2 沖縄県地球温暖化対策実行計画とは

●計画の目的

本計画は、平成 23 年 3 月、温室効果ガスの排出の抑制等を総合的かつ計画的に進めるため、沖縄県の温室効果ガス削減目標を定め、県民・事業者・行政がそれぞれの役割に応じ、連携を図りながら取組を推進することにより、地球温暖化を防止することを目的に策定しました。

この度、これまでの削減状況や社会・経済的状況の変化を踏まえ、本計画の中間見直しを行い、計画を改定しました。

●計画の期間

計画期間は、2011（平成 23）～2020（平成 32）年度の 10 年間です。



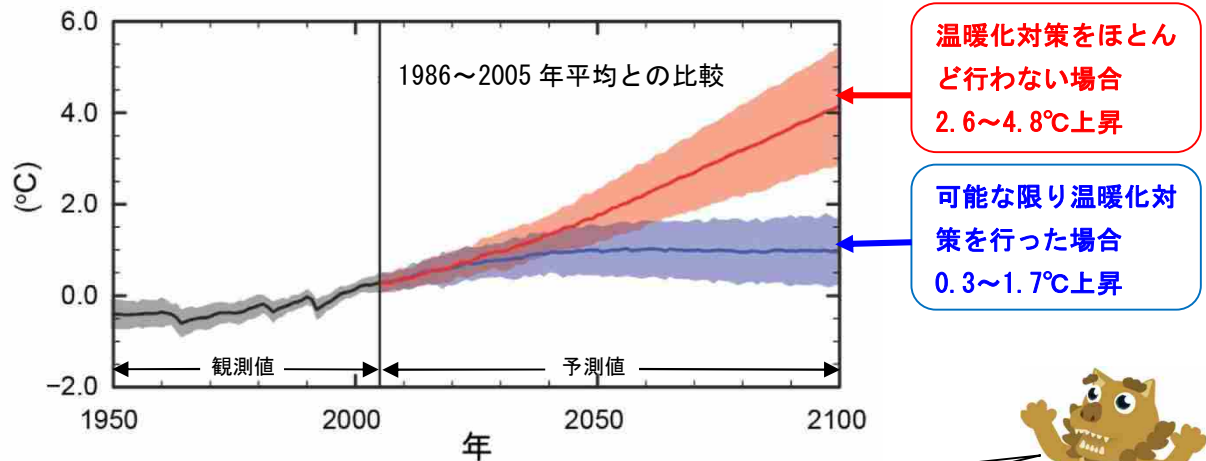
3 予測される地球温暖化の影響

● 気温および海水温の上昇

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）では、地球の気温や海水温などについて、複数のシナリオに基づいた温暖化による将来予測を行っています。

これによると、温暖化対策をほとんど行わない場合、2100年頃の**地球の平均気温は2.6℃～4.8℃上昇**し、可能な限り温暖化対策を行った場合でも0.3℃～1.7℃上昇すると予測されています。

世界の平均気温の変化予測



出典：IPCC第5次評価報告書（統合報告書 2014）

対策しないと
気温が上がっちゃう！

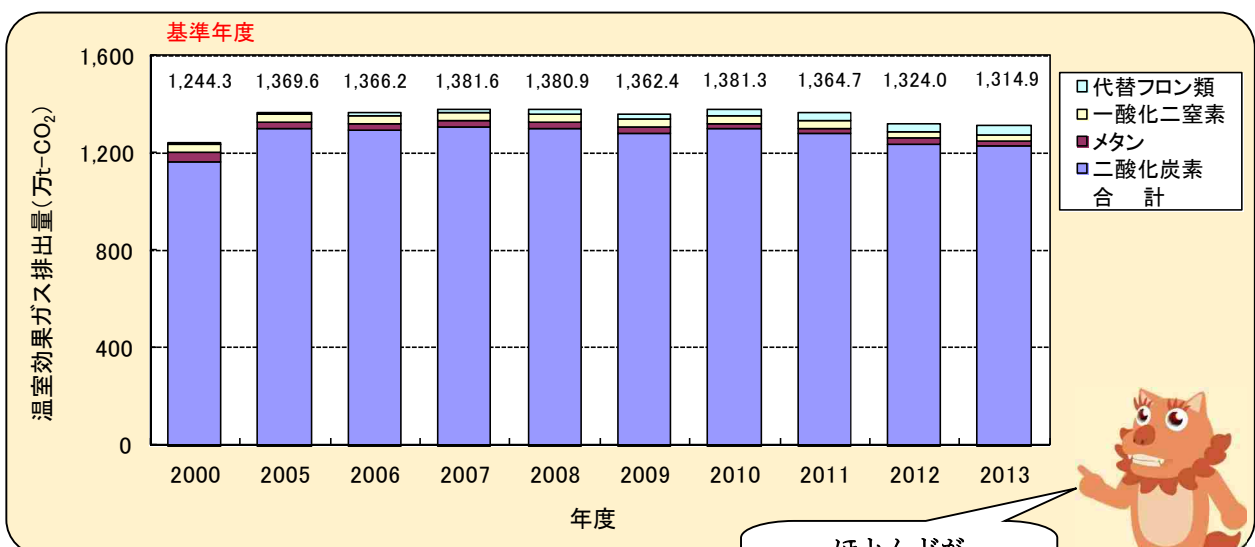


4 沖縄県の温室効果ガス排出量

● 温室効果ガス排出量

2013（平成 25）年度における沖縄県の**温室効果ガスの総排出量は、1,314.9万トン**（二酸化炭素換算。以下同じ。）です。基準年度の2000（平成 12）年度と比較すると、70.6万トン、5.7%増加しています。

なお、沖縄県の温室効果ガス総排出量は、日本全体の排出量の概ね1%程度です。



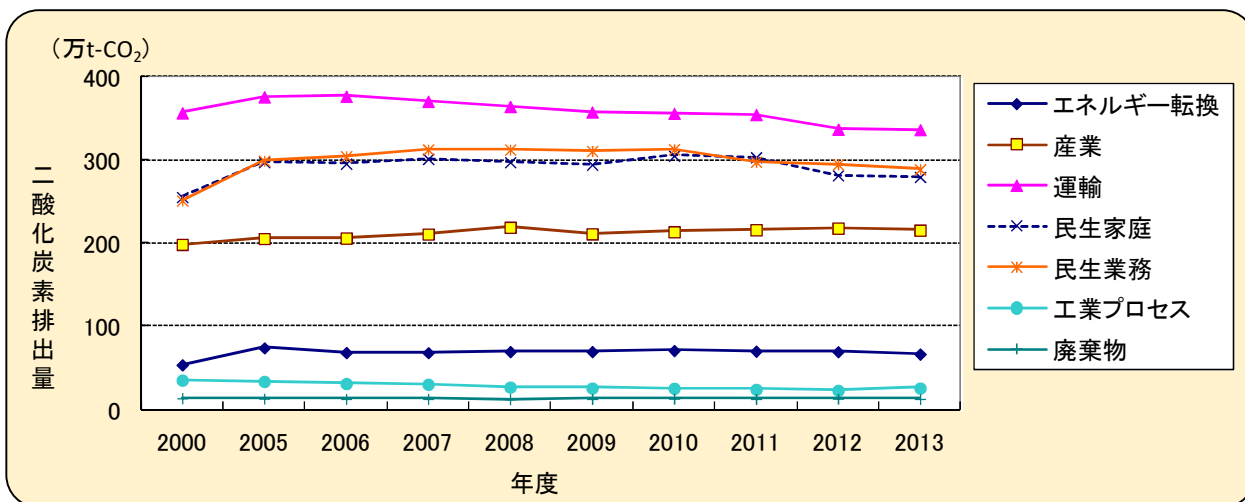
ほとんどが
二酸化炭素ですわ！



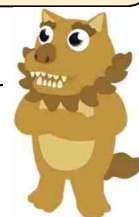
●部門別二酸化炭素排出量

部門別の二酸化炭素排出量をみると、基準年度（2000年度）から2013（平成25）年度まで運輸部門の排出量が最も高くなっています。

しかし、運輸部門の排出量は2003（平成15）年度以降、減少傾向にあります。

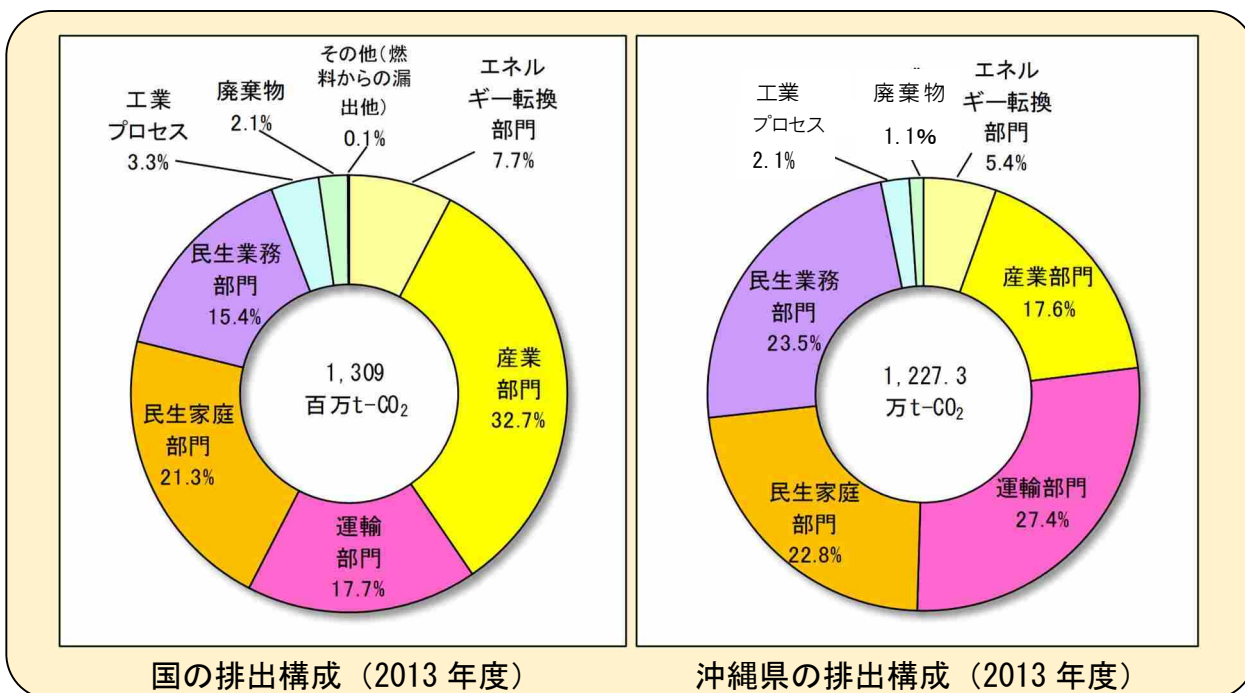


運輸部門が下がってきているね！



●国と沖縄県の部門別二酸化炭素排出量構成

全国と沖縄県の部門別二酸化炭素排出量(2013(平成25)年度)の排出構成を比較すると、全国では産業部門が32.7%を占めているのに対し、沖縄県では**運輸部門が27.4%と高い割合**を占めています。



民生家庭と民生業務の合計は、沖縄県が46.3%で国の36.7%より多いのよ！

5 温室効果ガス排出量の将来推計と削減目標

●将来推計

今後追加的な対策を実施せずに推移した場合（対策前）、沖縄県の温室効果ガス排出量は、**2020(平成 32)年度には 1,377 万トン**になると推計されます。これは、基準年度の 2000 年度の 1,244 万トンと比べ 133 万トン（10.7%）も増加します。

●削減目標

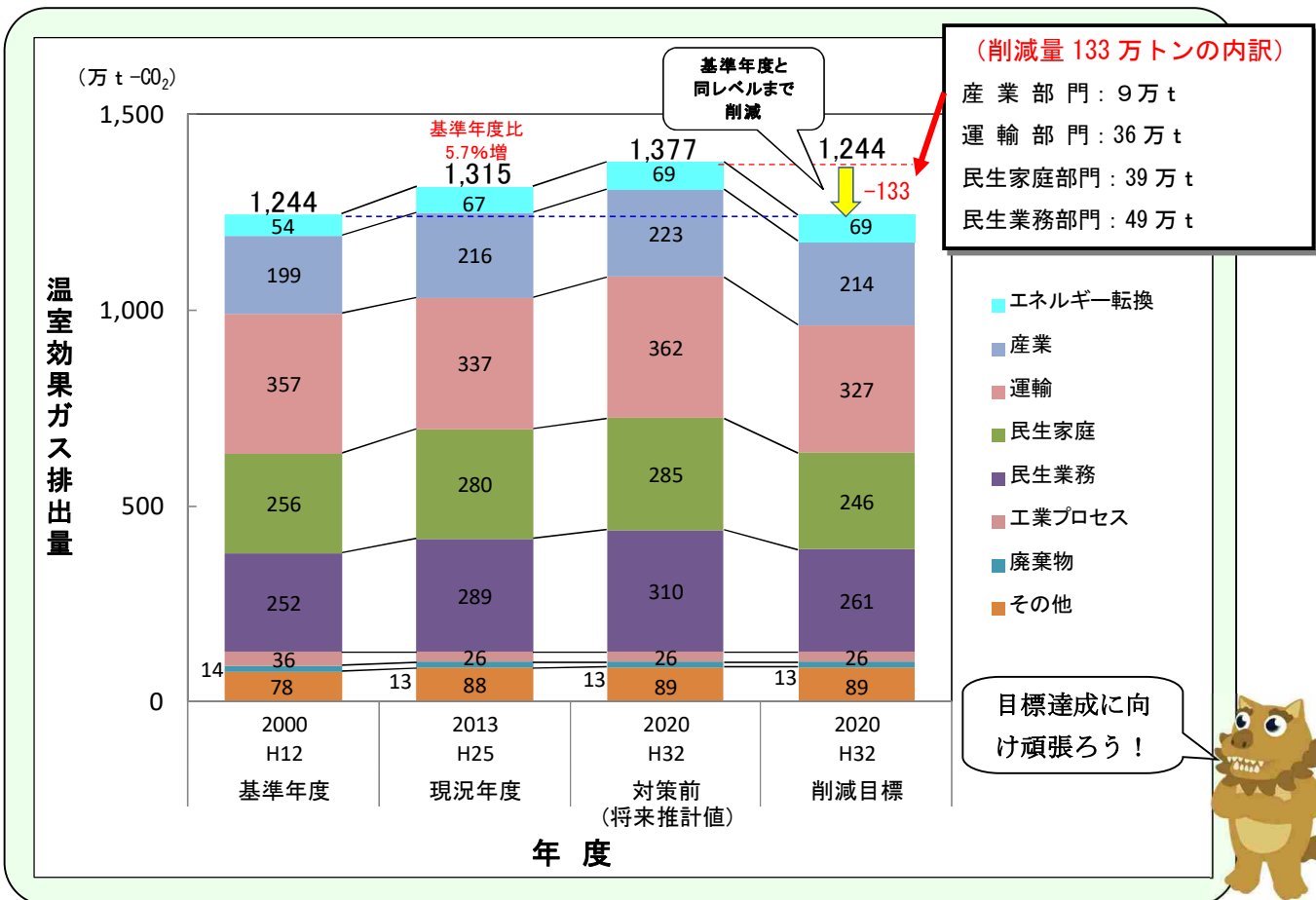
沖縄県においては、今後も引き続き人口や観光客の増加を踏まえた上で、温室効果ガス削減に向け、地球温暖化対策に係る現行施策の範囲内で達成可能と考えられる値を考慮して、2000(平成 12)年度（基準年度）と同レベルまで削減することを目標とします。

目標年度（2020（平成 32）年度）

削減目標：基準年度の 2000（平成 12）年度と同レベル



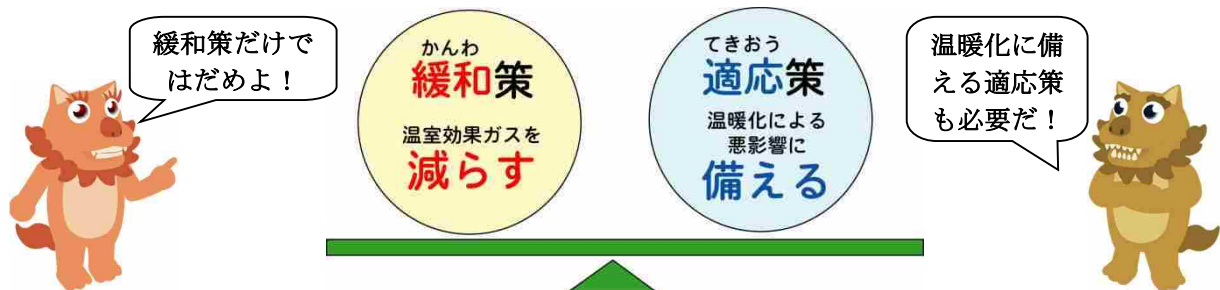
温室効果ガスの将来排出量と中期目標



6 沖縄県における地球温暖化対策の取組

●緩和策と適応策

地球温暖化の問題に対処するための方策は大きく2つあります。1つは、温室効果ガスの排出を抑制する**緩和策（かんわさく）**です。もう1つは、温暖化による悪影響にあらかじめ備えておこうという**適応策（てきおうさく）**です。温暖化対策は、緩和策と適応策のバランスが重要です。



注：「気候変動に関する取組」（環境省ホームページ <https://funtoshare.env.go.jp/>）を参考に作成

●緩和策について

本計画では、緩和策として4つの重点施策を設定しています。計画期間後半における取組においては、運輸部門及び民生業務、民生家庭部門の排出量削減が重要です。

重点施策1 家庭や業務系施設の省エネ化と意識啓発

- 家庭や業務系施設でのエネルギー消費実態や省エネによる効果の見える化
- 業務系施設での省エネ改修の促進
- 家庭における省エネ化の意識啓発 等

見える化



重点施策2 エネルギー等の低炭素化の促進

- 地中熱エネルギー等未利用エネルギーの技術開発及び普及
- 環境対応車の導入
- エネルギー転換部門等における燃料の低炭素化 等



重点施策3 公共交通の利用促進

- 交通需要マネジメント（TDM）施策の推進
- 公共交通（バス、モノレール）の利便性向上の促進
- 鉄軌道を含む新たな公共交通システムの導入検討



重点施策4 観光関連産業の低炭素化

- 観光施設における再生可能エネルギーの導入及び省エネ化（省エネ改修など）
- 沖縄の生物多様性保全と温暖化対策とのつながりを知るエコツアーの展開
- 超小型モビリティ・自転車利用による観光の推進 等



●適応策について

適応策は、地域におけるリスク管理の視点から、県民の安全・安心、健康や財産を守る取組を総合的・計画的に進めることが必要です。現時点で考えられる適応策は、下記のとおりです。

農業・
林業・
水産業

農作物や家畜の高温障害等の増加

- ・暑さに強い米・野菜・果樹の育成
- ・農家への暑さに強い品種の普及
- ・畜産における高温対策技術の開発
- ・水産資源管理など水産技術の開発・普及 等

水環境・
水資源

水質の悪化、渇水リスク増加

- ・水質モニタリングの実施
- ・赤土等流出対策の強化
- ・渇水対策のための水資源開発
- ・節水意識の啓発 等

自然
生態系

熱帯系生物の侵入・定着、海面上昇に伴う砂浜・干潟・マングローブ域への影響

- ・生態系ネットワークの形成
- ・自然環境の再生（森林、河川、砂浜、干潟、サンゴ等）
- ・陸域・海域の生物や生態系に関するモニタリング調査（重要種・外来種）
- ・自然環境保全への教育、普及啓発活動 等

自然
災害

台風の大型化、降水量の増加による災害リスク増加

- ・災害リスクを考慮したまちづくり・地域づくりの促進
- ・河道や堤防、防波堤・防潮堤の整備
- ・災害リスクの情報提供
- ・防災教育の実施 等

健康
被害

熱中症、デング熱などの蚊媒介性感染症のリスク増加

- ・熱中症予防・対処法のための環境保健指導マニュアルの普及
- ・都市・建築の暑熱対策（都市緑化の推進、風の道の確保、遮熱性舗装・保水性舗装、緑のカーテンなど）
- ・感染症を媒介する蚊などの分布調査や防除の実施、防除対策の普及啓発 等

7 推進体制・進捗管理

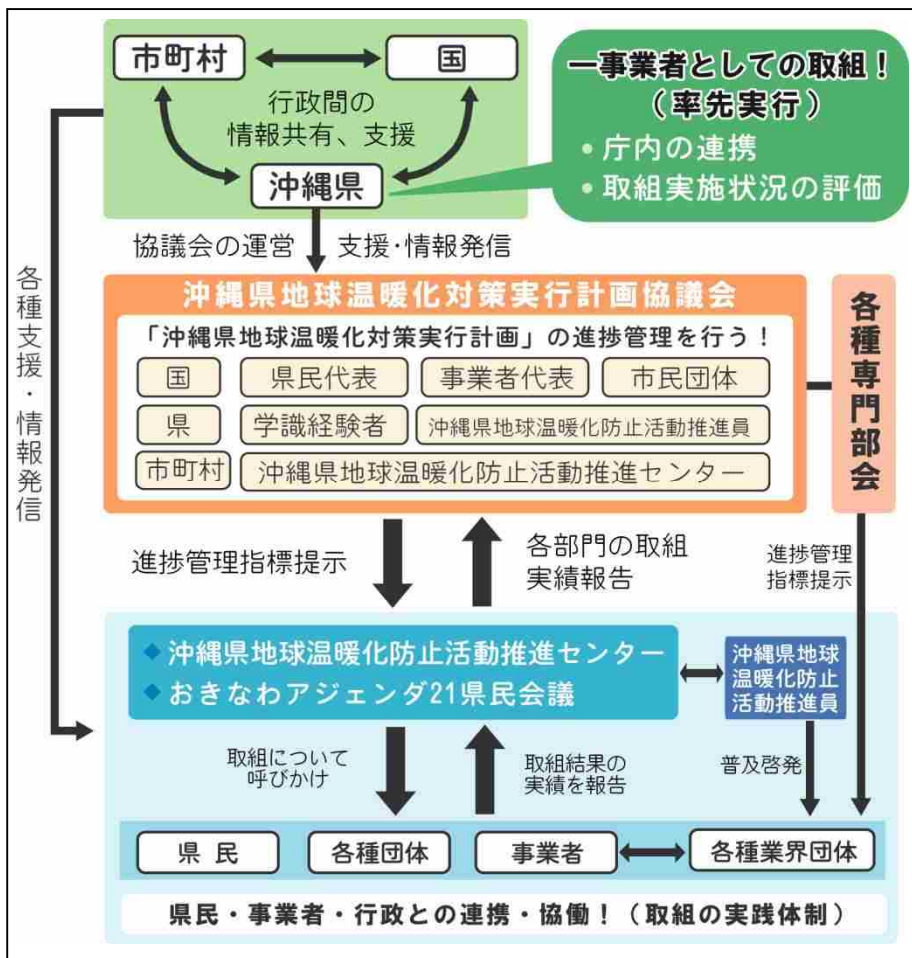
● 推進体制

計画の推進にあたっては、進捗管理を確実にするための推進体制が重要であり、県庁内の各部局間の連携を行うとともに、県民や事業者との連携、国や市町村等との連携体制を整えます。

2011年には、「沖縄県地球温暖化対策実行計画協議会」を設置したのよ！



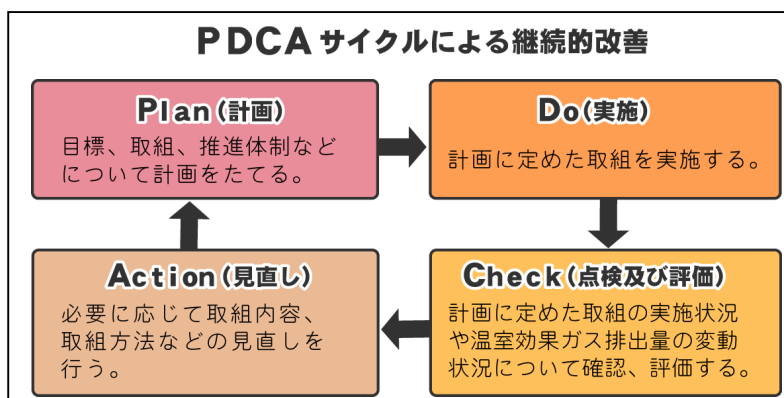
県民、市民団体、事業者が連携して取り組んでいくことが重要だね！



● 進捗管理

本計画の実効性を高めるため、PDCAサイクルによる進捗管理を行います。

また、毎年の温室効果ガス排出量、重点施策の取組状況を把握・評価し、県のホームページで公表します。



2016 (平成 28) 年 3 月 改定

沖縄県環境部環境政策課 (平成 28 年 4 月より 環境部環境再生課)

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎 1-2-2

TEL : 098-866-2064 FAX:098-866-2497

E-mail : aa021100@pref.okinawa.lg.jp

※詳しくは、沖縄県環境再生課ホームページをご覧ください。